

ポイント 2

確かなコミュニケーション力を育てます。

教科としての外国語（英語）では、
コミュニケーションを図る基礎となる
資質・能力の育成をねらいとしています。
教科となれば、楽しく活動をしながらも、
英語力が身に付くという成果が求められます。

私たちは、ことばの習得の理論、子供の発達段階、
小学校現場での実情をふまえ、
また中学校の英語学習につなげていくために、
次のことを心がけました。

- 子供たちが触れる英語の質と量の確保
- 必然性のある場面設定
- 子供の気持ちに寄り添った言語活動

楽しく活動に取り組んでいく中で、
確かなコミュニケーション力が育つことを願っています。

ポイント 2-1 HOPで学びの見通しを立てます。

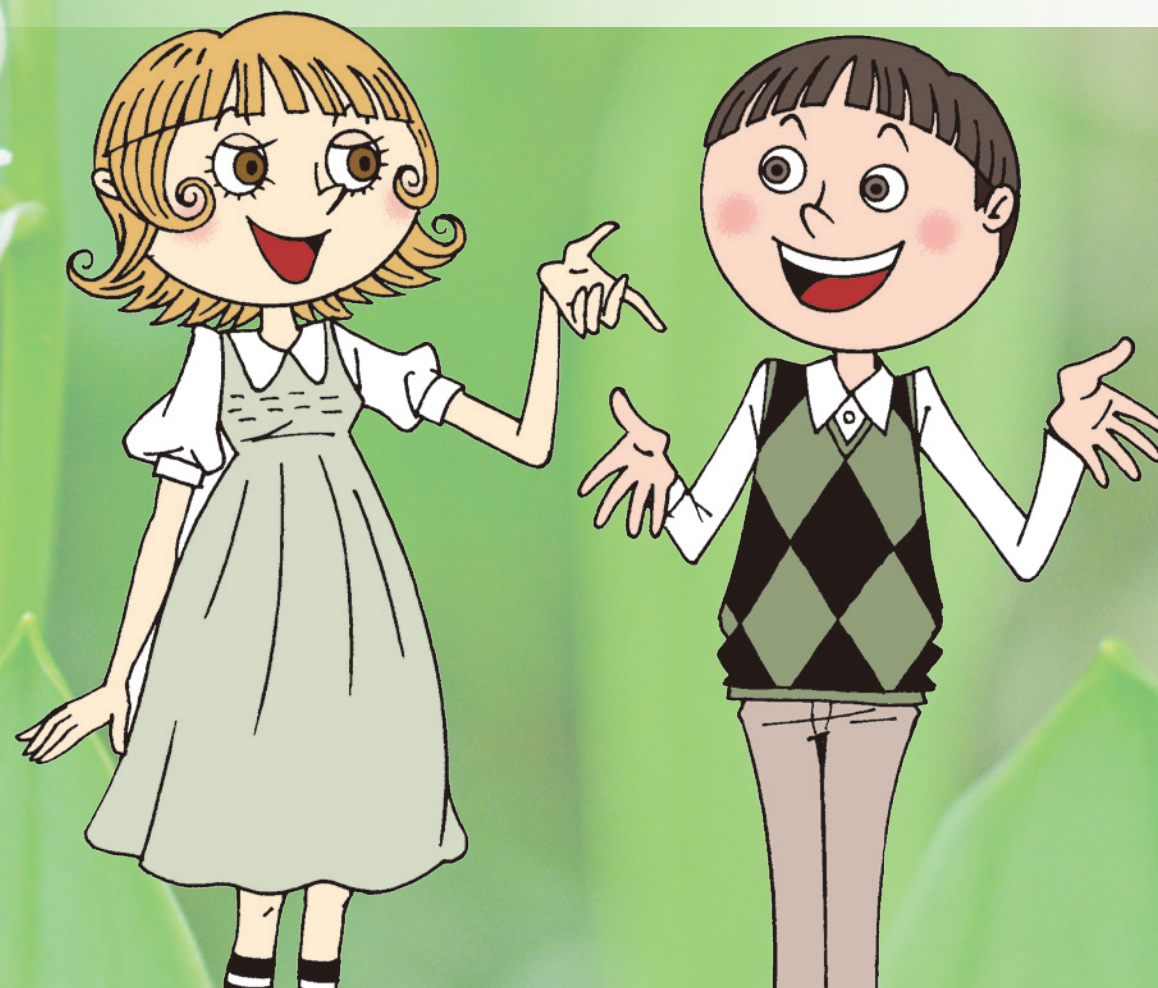
ポイント 2-2 わくわく！ 多彩な活動が展開できるPanorama

ポイント 2-3 たっぷり英語に触れられます。—— ボトムアップ型

ポイント 2-4 たっぷり英語に触れられます。—— トップダウン型

ポイント 2-5 むりなく文字に親しめます。—— 「読む」と「書く」

ポイント 2-6 考える力、判断する力、表現する力を育てます。





子供の学びを支える考え方

『CROWN Jr.』を深く理解していただくために、教科書の構成や教材の選択、活動の設計を理論的に下支えしている子供の言語習得の考え方を整理しました。



大量のインプットが必要

赤ちゃんは、まわりの大人が話しかけるたくさんのことばを聞いて、1歳半から2歳くらいでようやく話し始めます。外国語の学習も基本的には同じで、たくさんのインプットがあってはじめて、少しずつことばが口から出るようになっていきます。先生がたの子供へ語り掛ける英語(Teacher Talk)や、ターゲット表現を含めた一連の会話などは、目的や場面、状況が明確な、いわゆる「文脈のある」英語であり、すぐれたインプットです。『CROWN Jr.』ではそのようなすぐれたインプットを大量に与える豊富な音源を用意しています。

思考を働かせながら聞いたり読んだりする

子供は、すべてを理解できなくても聞き続ける力や読み続ける力(あいまいさに耐える力)を活用しながらことばを習得します。外国語学習でも、理解できたことに基づいて、全体の内容を推測しながら聞いたり読んだりし続けることが大切です。『CROWN Jr.』では、習っていないことばが入っている文を聞いたり読んだりする機会も提供しています。内容理解のためのキーワードを、十分に慣れ親しんだことばに限ることによって、子供はキーワードをたよりに、こんな意味のことを言っているんだな、書いているんだなと、推測していきます。

自分の「思い」をことばにして学んでいく

与えられた定型表現を言っているだけでは、ことばは身につけません。自分の言いたいことがあり、それをどんな英語で言えばよいか、自分が言える表現の中ではどれが使えるかを「思考」し、「選択」する経験を積んでいくことが、英語の表現力をつけることにつながります。『CROWN Jr.』では、「子供本位の活動」を設計しました。教員がコントロールする場面もちろん必要ですが、子供が本当に言いたいことを言う機会を作ることもまた、大切だと考えました。子供自身が思考し、判断し、表現する経験を積み重ねることで、子供たちの英語の世界を広げます。

習ったことが使えるまでには時間がかかる

どんなことでも、「習った(=知った、理解した)」からといってすぐに「使える」ようにはなりません。とりわけ外国語学習においては、習ってから使えるようになるまで、長いスパンを要します。習ったことに別のさまざまな場面や状況で繰り返し触れたり、教員の助けも借りながら使ったりといった経験を積み重ねてようやく、自分の力だけで使うことができるようになります。指導にあたっては、成果を急がないことが大切です。『CROWN Jr.』ではHOP → STEP → JUMPの長いスパンの中で、スパイラルに表現や語彙に触れることで力をつけていくことを目指しています。

ポイント

2-1

HOPで学びの見通しを立てます。

- 大単元の始まりである**HOP**では、**STEP**、**JUMP**へと続く学びを見通します。
- まずは活動をして、今の自分の力を確認し、**JUMP**に向けて目標を設定します。



1時間
配当

HOPは、学びのプロセスの起点である重要な小単元です。JUMPではだれにどんなことを伝えたいか、そのためにどのようなSTEPを積み重ねていけばよいかを確認し、「なりたい自分」をイメージして自らの学びの見通しを立てるのが、この小単元の役割です。HOPに戻ってくれば、いつでも目標を確認できます。

HOP Hello, Mr. Sano!
Get Ready 2 教えて、先生のこと

Task 1 クラスの友だちになりきって、「Who am I?」クイズをしてみましょう。
Task 2 ゆうたさんが佐野先生とサントス先生にインタビューをしました。インタビューを聞きましょう。その後、人物あてクイズに答えましょう。
My Goal HOP、STEP、JUMPを通して、インタビューをして、その人のことを紹介できるようにします。だれに、どんなことを質問したいかを書きましょう。

だれに _____
どんなことを _____

◆5年 p.39

Task 1

練習なしで活動に取り組み、今の自分の力で言えること、言えないことを確認します。

Task 2

イラストを見ながら、それぞれの英文を聞きます。英文の内容は、**JUMP**のモデルなので、子供たちは目指す姿を確認することができます。

★①スクリプト

Yuta: Hello, Mr. Sano. Can you cook?
Mr. Sano: Yes, I can. I am good at cooking.
Yuta: I can't eat *natto*. How about you?
Mr. Sano: I can't eat *natto*, either. I don't like *natto*.
Yuta: Thank you.

My Goal

Task 2 で目指す姿を確認したら、**STEP**、**JUMP**を通して、自分はだれに、どんなことを伝えられるようになりたいかを書き出します。**JUMP**の最後のふりかえりでは、この目標が達成できたかを自己評価します。

わくわく！ 多彩な活動が展開できるPano rama

- Small Talk や絵さがしゲームなど、多彩な活動が展開できます。
- 子供たちも夢中に！ 学ぶ意欲をかきたてられます。



STEP

各Lesson
6時間配当

1枚絵の楽しいイラストで、明確な場面の中でその課のターゲット表現や語句を提示します。Teacher Talkでターゲット表現や語句の導入、既出表現を使ってSmall Talkなど、多彩な活動が展開できます。毎回の授業はこのページからスタートすれば、英語の授業への動機づけ、ウォームアップができます。

デジタル機器などで読み取ると、単語の音声を聞くことができ、絵辞典として使えます。

Panorama では、1枚の絵の中で3つの要素を示しています。

- 場面(この例では、さまざまな職業の人々がいる町)
- ターゲット表現につながる登場人物たちの会話
- 場面やテーマに即した単語

会話

★スクリプト

Gretel: Can you see the man at the bakery? His name is Hansel. He is a baker. He is my brother.

Jack: Wow! Your brother is a baker! You are lucky! I love bread!

* 生き活きた会話の音源を用意しています。

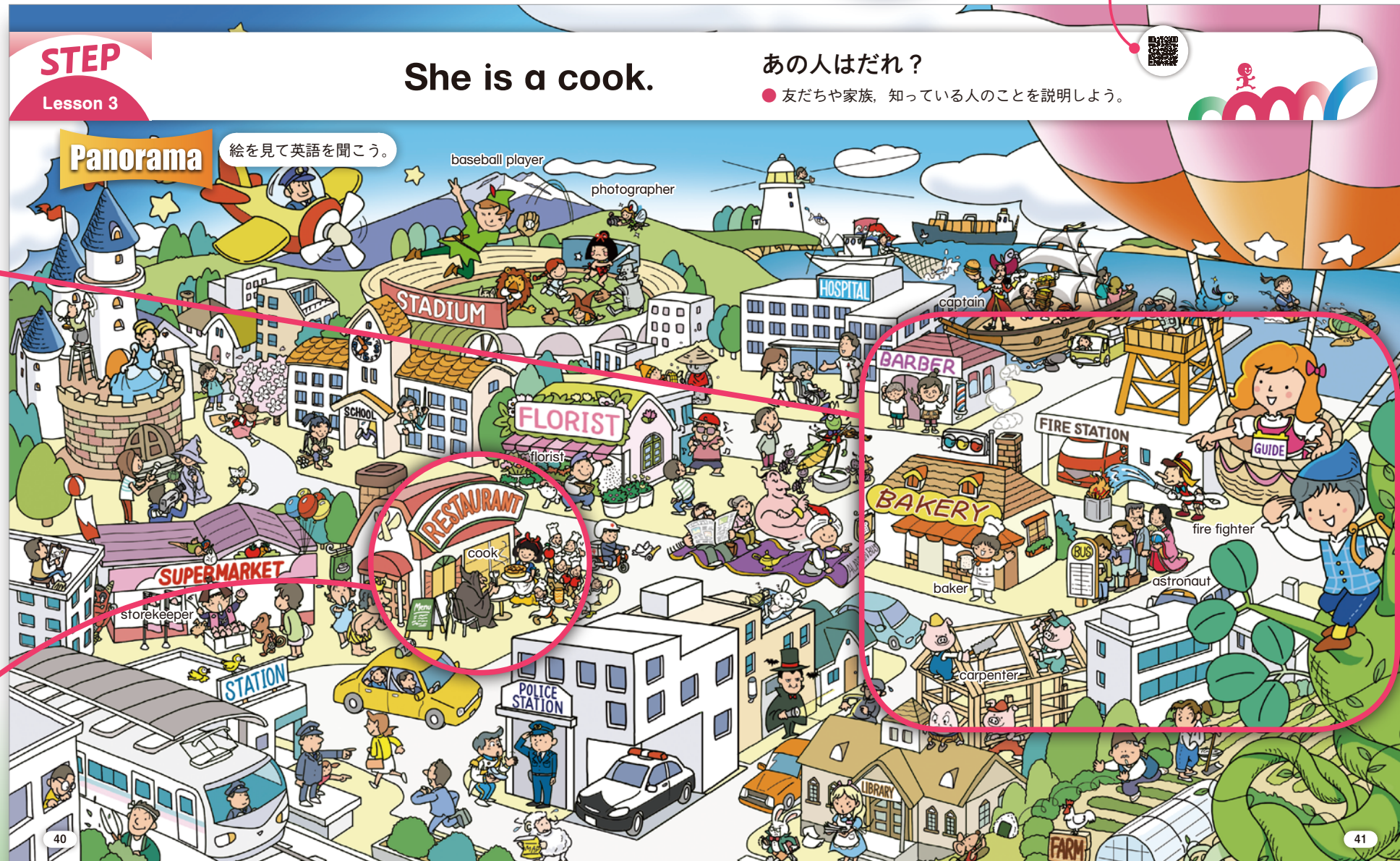
単語

★文字

英語の文字をさりげなく配置。音声を聞いているときに文字が自然に目に入る状況を作ります。

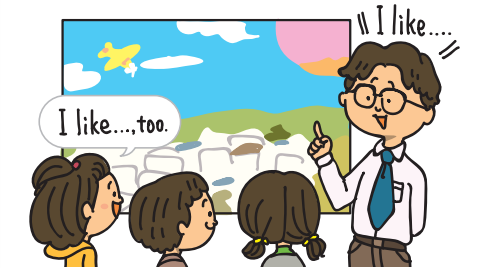
★デジタル教材

文字がないものも、音声を聞くことができるので、絵辞典として使うことができます。



Panoramaをこんなふうに使ってください

Small Talk



単語や表現の導入・習熟



絵さがしなどの活動



使い方を動画でサポート

小社ウェブサイトでは、動画でパノラマを使った活動例を紹介しています。

◆ 5年 pp.40-41

たっぷり英語に触れられます。—— ボトム アップ型

- ターゲット表現は、少しずつ、何度も触れて確実に習熟していきます。
- 子供の気持ちに寄り添った活動を設定しています。

STEP

各Lessonは、豊富なインプット(聞く・話す)と少しのアウトプット(話す・書く)の構造になっています。Listen & Talk → Enjoy Listening → Talk to Friends の流れの中で、既出表現に何度も触れ、インプット・アウトプットが繰り返されることで習熟を図るようにしています(ボトムアップ型の学び →p.23 NOTE)。

Listen & Talk



●Spotlight Aは、パノラマで展開される対話からターゲット表現に焦点化していきます。

●Spotlight B・Cでターゲット表現をさらにインプットします。

●大量のインプットを与えながら、徐々に子供のアウトプットを促します。

◆5年p.42, 44, 46

Word Chant

Word Chant (Part 2に配置)では、チャンツを楽しみながらさまざまな語彙に触れます。



◆5年pp.44-45

Enjoy Listening



Lesson 3

Enjoy Listening 

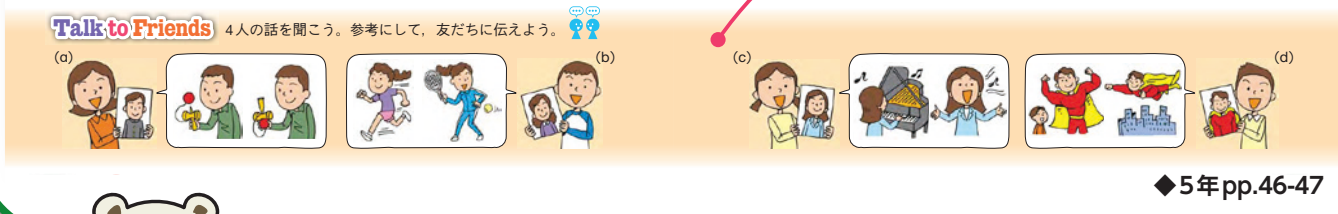
どんなことを言っているかを聞こう。


◆5年p.47

★スクリプト

This is Mr. Brown.
He is an English teacher.
He is good at singing.

Talk to Friends



Talk to Friends 

4人の話を聞こう。参考にして、友だちに伝えよう。

◆5年pp.46-47



各Lessonの活動の経験がJUMPにつながっていくんだね。

- 楽しく聞き続けられる音源を豊富に用意しました。
- 子供のアウトプットを引き出す活動のバリエーションは、指導書やデジタル教材で提供します。

たっぷり英語に触れられます。—— トップダウン型

- 世界を広げる題材で、子供の興味を引き付けながらたっぷりと英語に触れることができます。
- イラスト、場面、状況、わかることばなどを頼りに、推測する力を養います。

多少わからない語や表現があっても、イラストや場面、状況、わかるセリフなどをヒントに、意味を想像しながら聞いたり、読んだりする経験の積み重ねによって、子供たちは推測する力やあいまいさに耐える力をつけていきます(トップダウン型の学び →NOTE)。ボトムアップ型の学びとともに、こうした経験をしていくことで、確かなコミュニケーション力につなげていきます。

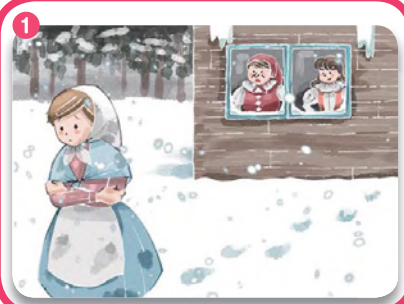
STEP

Story

- 子供たちになじみのある物語を英語で楽しめます。
- イラストを助けに、「聞き取れた」「(吹き出しの英語を)読めた」という達成感子供たちに与えます。

Story Twelve Months (1)

12月の寒い日、マルーシカは母と姉に森へ出かけるよう言いつけられます。



イラストを見ながら、お話を聞きます。

★スクリプト

Horena: Mother! Mother! I want violets! I want violets!
 Mother: OK, Horena. Marushika, go into the forest and find some violets!! NOW!!
 Marushika: But it is December. Violets don't grow in December. They grow in March.
 H and Mo: Go into the forest and find some violets, Marushika! NOW!!
 Marushika: Um . . . OK.

音声で慣れ親しんだ文字をさりげなく提示して、理解をサポートします。

- ①どんなお話でしたか。どんなことばが聞こえましたか。
- ②もう一度聞こう。

◆5年p.43「12の月のおくりもの」

■教科書掲載以外の絵も含むStoryイラストカードを用意します。

5年	北風と太陽(Lesson 1) 北風と太陽の力自慢。勝つのはどちらか。イソップ童話。	12の月のおくりもの(Lesson 3・4) 母と姉から無理難題を言われる少女を12か月の精が助ける。スロバキア民話。	幸福の王子(Lesson 6) 王子像が苦しんでいる人々に幸福を与える。オスカー・ワイルドの名作。
6年	ガリバー旅行記(Lesson 1) ガリバーの冒険譚。ジョナサン・スウィフトの名作。	青い鳥(Lesson 3・4) 幸せの青い鳥をさがしに旅をする兄妹。メーテル・リンクの名作。	メリーさんの羊(Lesson 6) メリーと羊のある日を描くストーリーじたての童謡。マザーグース。

実世界の英語

- 教室の外で出会う英語に親しめます。
- 英語を使うことで、世界とつながれることを経験できます。

Lesson 2

実世界の英語 世界の標識

①音声を聞いて、どの道路標識について話しているか、()に番号を書こう。

(a) () (b) () (c) () (d) ()

(e) () (f) () (g) () (h) ()

② (a)～(h)から標識を選んで、友だちにクイズを出そう。
 ヒント 色は何か?
 形は何か?
 どんな文字があるかな?

◆5年p.29 世界の標識

写真や図を見ながら、説明を聞き、話す活動につなげます。

★スクリプト

It is yellow. It is a diamond. You can see two children. It says "SCHOOL." S-C-H-O-O-L.



5年	世界の標識 (Lesson 2)
	メッセージカード (Lesson 5)
	観光案内ポスター (Lesson 7)
6年	国名の略語 (Lesson 2)
	メニュー (Lesson 5)
	本の表紙 (Lesson 7)

NOTE

ボトムアップ型とトップダウン型

この冊子ではそれぞれ下記のような意味で用いています。

ボトムアップ型：表現や語彙などに学習の焦点をあて、それらをひとつひとつ確実に積み上げて英語の基礎力を育てる学びの型。

トップダウン型：一定量の英文に触れ、意味内容に焦点をあて、概要から詳細、わかることからそれ以外へ、学びの方向を向けながら英語の基礎力を育てる学びの型。

考える力、判断する力、表現する力を育てます。

- 「主体的、対話的で深い学び」を実現する大単元のまとめの活動です。
- 「思考力、判断力、表現力」を見取るのに最適の小単元です。



6~8
時間
配当

聞こえてきた英文をリピートしたり、英文を音読して暗唱したりといった英語の学習だけでは本当のコミュニケーション力はつきません。目的や場面を意識し、自分で話す内容や構成を考え、ときには調べたりしながら表現していく活動の積み重ねで、確かなコミュニケーション力をつけることができます。そのために学年に3つ配置された小単元、それがJUMPです。

グループでの活動を基本とし、主体的・協働的に学び合います。

同じ大単元内のSTEPで経験した表現を中心に、3年生から経験してきた表現の中から自分の思いを伝える表現を考えます。

JUMP1でできなかったことを修正してチャレンジします。クラスの友だちの姿から学んだことを活かすこともできます。

JUMP 1

JUMP Presentation 2
He is a music teacher.

グループで先生にインタビューをしよう。

目的・場面・じょうきょうを理解する → 見通しをもち、じゅんびする → コミュニケーション

考えよう

- 先生のとくいなことを知るためにインタビューをします。グループで次のことを考えて、Goalに書こう。
 - だれに聞く?
 - どんなことを?
- 英語の表現をおさらいしよう。

音楽の先生にインタビューをしたいな。先生にどんなことを聞こうかな。

質問メモを用意しよう

- 質問メモを作ろう。
 - みんなが知りたいことは、どんなことか、考えよう。
- メモをもとに、英語でどう言うかを考えよう。

Can you play baseball?

MEMO Keita
野球はできるかな

I am good at singing. How about you?

MEMO Shiho
singing

リハーサルをしよう

- 先生役を決めて、リハーサルをしよう。
 - 聞きたいことを質問できましたか。
- もう一度やってみよう。

Hello. May I ask you a question? Yes!

インタビューをしよう

先生にインタビューをしよう。

Tip! あいづちも大切!
あいづちを打てば、話はずみですね。
▷ Wow! (わあ!!)
▷ Really? (そうなんですか?)
▷ Great! (すごいですね!)

まとめとふりかえり

- Goalは達成できましたか。よかったところはどこですか。
- 先生にインタビューをするとき、質問の順番で、どんなふうをしましたか。
- JUMP2では先生あてクイズを作ります。どんなふうをしたいですか。

JUMP 2

JUMP2 先生あてクイズをして、先生のことを伝えよう。

Goal!

- 情報を整理して、スリーヒントクイズを作ろう。どんなクイズを作りたいか、Goalに書こう。ヒントの順番を考えて、下のらんを書こう。
- ヒントカードを作ろう。
- グループで練習をしよう。
- さあ本番。先生あてクイズをしよう。

Please listen.
Hint number 1.
He is good at cooking.
Hint number 2.
He can't eat *natto*.
Hint number 3.
He is a music teacher.
Who is he?

どんな順番でヒントを出すと、楽しいクイズにできるかな?
ヒント1 ヒント2 ヒント3

まとめとふりかえり

- HOP(39ページ)で立てた目標(My Goal)は達成できましたか。
- 次は、どんなふうをして活動したいですか。

指導書には、評価のためのルーブリック、活動がよりスムーズにできるワークシートを用意。

5年 Presentation 2

知識・技能	評価規準：He / Sheの意味や語法を理解して、He / Sheを用いた文構造を使うことができる。
A	正しい文構造で、I, You, He / Sheを適切に用いた英語を話すことができる。
B	正しい文構造で、He / Sheを用いた英語を話すことができる。
C	He / Sheを使い分けて英語を話すことができない。
思考・判断・表現	評価規準：目的や場面、状況に応じて、先生を紹介するヒントを話すことができる。(先生を紹介するという目的、先生あてクイズという場面、インタビューしたことに基づいてクイズを作るという状況)
A	先生を紹介するという目的に応じて、インタビューしたことに基づいて情報を選んでヒントを作成し、ヒントの順番を工夫しながら話すことができる。
B	先生を紹介するという目的に応じて、インタビューしたことに基づいて情報を選んでヒントを話すことができる。
C	インタビューに基づいて先生のヒントクイズを話すことができない。
主体的に学習に取り組む態度	評価規準：他者を意識しながら、主体的に先生あてクイズを行っている。
A	聞き手を意識し、伝わっているかどうかを意識して、先生あてクイズを行っている。
B	クイズで取り上げる先生を尊重しながら、聞き手を意識して先生あてクイズを行っている。
C	クイズで取り上げる先生を尊重したり、聞き手を意識したりして先生あてクイズに取り組めない。

◆5年pp.72-74

使い方を動画でサポート

小社ウェブサイトでは、動画でJUMPを使った活動例を紹介しています。

〈ペア・グループ〉→〈全体〉のsmallステップになっているので、子供たちもむりなく取り組みます。

実生活にダイレクトに結びつくタスク設定で、目的・場面・状況に応じて、思考力・判断力を働かせながら自己表現します。

◆5年pp.48-49

JUMPは2回できるんだ。やり直しができるから「できた!」という実感を持ってそうだね。

